

写真で綴る^{つづ}福地孝宏の旅展^{たびてん}

震災後の東北を巡る旅^{めぐ}

写真展ではなく、美しい写真とテキストを使って旅を共感する。
それが福地孝宏の旅展です。

3年前の3月11日に起きた東日本大震災後の東北を巡る旅。私は、地震発生から5ヶ月後、夏休みを利用して24日間の「震災観光」へ出発しました。現地では心^{おもむ}趣くままに写真を撮りましたが、旅の終盤に抑えがたい衝動^{しゅうばん おさ}に駆^{しょうどう か}られました。この写真をみんなに見せなければ！ 私にはそれができるし、それは私がしなければいけないことである、と。名古屋に帰ってから全力で準備し、1週間後に市民ギャラリー矢田で企画展『がんばろう日本！ 一東日本大震災から5ヵ月後の東北をめぐる旅一』を開催しました。今回の展示は、それをベースにしています。

実は、私はそれから被災地を訪れていません。特別な支援もしていません。いつもの仕事を精一杯していただけです。中古ビル購入の機会に恵まれたことも、その中の1つです。そして、美術館としての整備が進み、いよいよギャラリー企画展の計画を始めました。本来ならクロッキーを中心とする美術作品で構成するべきですが、私はメッセージ性の高い「震災」を選びました。子どもたちにふさわしい展示をしたかったことも理由の1つです。

私の願いは、地震を自然現象の1つとして受け入れ、自然と共に生きてく社会をつくることです。自然の恵みと自然災害は同じものです。災害は、人の基準で決めたものであり、最大の災害は、未来の人々に原発から出る核廃棄物の処理を押しつける社会です。私は、今回の展覧会で自然の中で遊ぶ様子も示しました。深い悲しみとひ弱な自分を感じるだけでなく、生きること、豊かな自然の中で生きる歓びを感じる事が大切なのではないか、と思います。

2014年1月25日 福地孝宏